5月の定例教育委員会のお知らせ

◆日時／5月14日(月)　15時～　◆場所／第2委員会室(自由に傍聴できます)
◆問い合わせ／教育委員会 教育振興課　☎75−8022

江戸から明治へ～肥前たく幕末維新百五十年～

(一)『珮川詩鈔』版木と版本

草場佩川は、江戸後期の佐賀を代表する儒学者にして文人です。彼は生涯に二万首以上の漢詩をつくっていますが、そのうち十八歳から五十三歳までの漢詩を、およそ六百首選び『珮川詩鈔』として嘉永癸丑（1853年）に刊行しています。

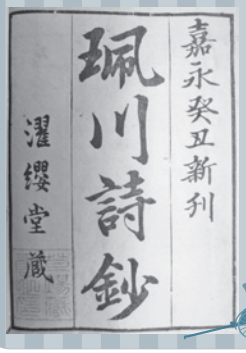
江戸時代に本を出版する際は、版木と呼ばれる木版に、彫り師が鏡文字を彫り込み、それを用いて摺り師が一枚ずつ印刷していきます（江戸初期には活字本もありました）。

多久市郷土資料館には、草場家から寄贈された『珮川詩鈔』の版木があります。今回、版木および『珮川詩鈔』(個人蔵)に見られる枠線・罫線の欠失、補修、文字の差替・追加などを調査し、本館所蔵の版木によって印刷された版本があることを確認しました。また、本館所蔵の版木は、江戸時代末期に使用されたばかりでなく、明治時代初期にも使用されたことが判明しました。

多久市郷土資料館長　藤井　伸幸

版木（本を印刷するための木版）

版本（版木で印刷された本）



今月の論語

徳は孤ならず　必ず隣有り

徳ある人は、決して孤立しない。必ず理解者や仲間が現れるものである。

今月の帰宅放送は、東原庠舎東部校9年　秋永　祐汰さん（東多久町）です

教育長コラム　ちょっといい話

「ハグハグ大作戦②」

ハグハグ大作戦の感想に、素敵なエピソードもあった。

「お父さんは、朝早く仕事に出るし僕が寝てから帰ってくる。ハグができなかったので、お父さんの欄は全部 × だ。でも、お父さんは帰ってきてから、寝ている僕を毎日抱っこしてくれていたとお母さんが教えてくれた。それを聞いて、僕はとっても嬉しくなった」。

素晴らしい家族の連携です、母親の思慮深さに感動します。この子は、お父さんとは時々しか顔を合わせられなくても、大切にされていることを実感し、幸福感に満ちたでしょう。

「激しく怒っていたけど実は一番心配していたのはお母さんだよ」、「爺ちゃんは言葉は少なかったけど喜んでいたよ」など、優しさや思いやりは、間接的に伝え聞くと、より一層心に浸みるものですね。

教育長　田原　優子

市民文芸

短歌《麦の芽短歌会 互選》

◆手さぐりに 歩み来たりし 長き道
ともしびなりし 母の言葉は
川浪　信子

◆朝なさな「変わりないか」と 問ひくるる
看護師の声の 清しく響く
木村　則子

◆片言で 喋りし孫も 五年生
なごみの言葉 われにかけくる
福島那智子

◆大病を 患う夫の 爪を切る
癒しの時間 ふたりをつつむ
梶原恵美子

◆平和なる 鳩の行方は 定まらぬ
中に碑の前 歌会重ねし
尾形　節子

俳句《互選》

◆師の便り 読み返しゐる 花の昼
田中あつ子

◆野遊びの 土の匂ひと 日の匂ひ
中嶋　清子

◆菩提寺の 白梅匂ふ 庇かな
武富　律子

◆聖廟の 朱塗りの柱 夜のおぼろ
倉成　皓二

◆古井戸を まあるく囲む 花菜かな
おおやはな

川柳《多久市川柳会 互選》

◆惜しみなく 散る桜木の 潔よさ
高塚ちかこ

◆春風が 歓迎されぬ 花粉連れ
猪ノ口昭子

◆麻痺の手に そっと支える 介護犬
井上　東子

◆学んだら 知らないことが 増えてきた
松下　修

◆失敗を 結果とはせぬ 通過点
西山　残月